

2026年1月7日発行

## 令和8（2026）年度

### 日本言語技術教育学会事務局通信第53号

謹啓 初春の候、会員各位に於かれましてはますます御清栄の段、何よりの慶事と心からお喜び申し上げます。昨年も大変お世話になりました。今年も本学会発展に際し、御支援・御協力賜りますようお願い申し上げます。

さて、第34回研究大会は令和7年7月26日（土）秋田大学教育文化学部附属小学校において67名の参加者を得て開催することができました。実行委員長を務めてくださった京野真樹理事を始め、会場の先生方、理事の皆様、学習者として参加してくれた子供たち、御参加の皆様のお蔭です。

深く感謝申し上げます。

午前は「記者になって、質問をしよう」、「「学校で好きな場所」を4段落構成でまとめる」、「eラーニング教材による「鑑賞・批評」指導～『君は「最後の晚餐」を知っているか』～」、「書き足し・書き替え物語で読み深めよう～『ぼくのブック・ウーマン』～』という4本の提案授業、午後はパネル・ディスカッション形式による提案授業の検討を行い、学習者に身に付けさせるべき言語技術を学び合いました。提案授業とその検討を同日に行い、研究者と実践者が学び合う稀有な研究大会として今年度も多くの成果を上げることができました。

来年度は会場校長小山内仁先生の御尽力により、第35回研究大会を令和8年7月4日（土）に学校法人大多和学園開星中学校・高等学校で開催いたします。是非、多くの皆様に御参加いただきますようお願い申し上げます。

今年度も本学会の目的である「言語技術教育の創造を期し、我が国の国語科教育の改革および発展に貢献すること」の実現に向けて精進してまいります。

皆様の御健康・御多幸をお祈り申し上げます。引き続き、御指導・御鞭撻をお願い申し上げます。

頓首

日本言語技術教育学会事務局長 田邊泰拝

## I 旧会長退任挨拶 柳谷直明

大内善一前会長の後任として、平成30（2018）年6月30日の理事会の互選で第四代会長として選出された。全理事、全会員、研究大会全参加者等の協力を得て、任期である3学会年度を2度担当できた。東京・青山学院大学、（2020年は新型コロナウイルス感染症の流行で研究大会開催を断念）、クラウド大会、栃木・宇都宮大学、静岡・常葉大学、群馬・育英短期大学、秋田大学教育文化学部附属小学校の六大会を会長として開催できた。研究の歩みを止めたくないで開催したクラウド大会は実に勉強になった。このときの学びが現在のICT活用のスキルとなっている。苦境時の学びこそ深い。全会員の

協力を得て、会長として会の発展に取り組める。御縁いただいた諸賢に感謝の意を表する。

中村孝一理事は副会長として支えてくれている。常葉大学で何度も研究大会を開催してくださり、言語技術の具体的提案や本学会の発展に尽力いただいている。加えて、会を運営する事務局にも支えられている。富樫忠浩前事務局長、富樫いずみ前幹事、渥美清孝事務局長が業務改善し、運営している。副会長、事務局にも、感謝の意を表する。

本学会の多くの先達から得た学恩・学徳に報いるためにも、課題解決を報告して深め合うための研究大会を開催し続けよう。令和9（2027）年度以降の研究大会開催地は未定である。大会開催地の立候補者を公募している。

最後に、今年度もまた本書を公刊できたのは、全執筆者、支部担当者、全会員、読者諸賢、溪水社の木村逸司社長、編集者の木村斉子様、そして、公刊に関わっていただいた全ての皆様のお蔭である。深く感謝申し上げる。

## Ⅱ 新会長挨拶 今井 東

柳谷直明前会長の後任として、会長という大役を仰せつかりました。微力ながら、職務に全力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

第34回秋田大会を盛会裏に終えることができました。これもひとえに、会場提供など御準備いただいた京野真樹大会実行委員長、理事・参加者各位のご協力の賜物であります。また、秋田大学教育文化学部附属小学校の児童の皆さんの参加もあり、たいへん中身の濃い充実した大会となりました。関わってくださったすべての皆様に、深く感謝を申し上げます。

ご案内の通り、本学会の大会は、授業者が模擬授業（または公開授業）を通して言語技術を提案し、検討し合うという研究方法を採っています。また、研究者と実践者がそれぞれの立場から言語技術の解明に向けて平等に意見を述べ合うのも本大会の特長です。秋田大会でも「技術が見える授業づくり」を大会テーマに、4つの授業提案を基にした真剣な議論が展開されました。その詳細については、現在編集中の『言語技術教育35』をご覧ください。

さて、第35回となる次期大会はNHKの連続テレビ小説『ばけげん』の舞台である島根県松江市の大多和学園 開星中学校・高等学校を会場に開催されます。「話すこと・聞くこと」領域では、「分かりやすく説明する」ことにおける言語技術、「書くこと」領域では、描写の言語技術を活用した作文指導における言語技術、「読むこと」領域（説明文）では、対話方式による説明文の読解指導の言語技術、「読むこと」領域（文学）では、短歌の読解・鑑賞における言語技術の提案が行われます。

午後は、午前中の4つの授業で提案された言語技術の有効性を議論し、検討し合います。登壇する指定討論者だけでなく、フロアの皆様にも積極的に検討に加わっていただき、実り多い大会となるようお願いいたします。

大会当日、島根県で皆様にお会いできることを楽しみにしております。

### Ⅲ 日本言語技術教育学会第 34 回大会(秋田大会)報告

#### 1 大会テーマなど

【大会テーマ】言語技術が見える授業づくり

【期日】令和 7 (2025) 年 7 月 26 日 (土)

【後援】文部科学省、秋田県教育委員会

【会場】秋田大学教育文化学部附属小学校 (〒010-0904 秋田県秋田市保戸野原の町 13-1)

【参加費】 事前入金 (7 月 24 日締切) 非会員 4,500 円 会員 4,000 円 学生 2,500 円

当日入金 非会員 5,000 円 会員 4,500 円 学生 3,000 円 (資料他込み)

#### 2 日程

09:00 受付開始

09:45 開場・諸連絡 渥美清孝 (事務局長)

実行委員長挨拶 京野真樹 (理事)

09:50 開会挨拶 柳谷直明 (会長)

##### 第一部 提案授業

10:00~10:25 模擬授業 1 話すこと・聞くこと「記者になって、質問をしよう」(自作小 6 教材)

授業者 田邊 泰 (青山学院大学)

10:30~10:55 模擬授業 2 書くこと「学校で好きな場所」を 4 段落構成でまとめる」(自作小 4 教材)

授業者 岩下 修 (元立命館小学校)

11:05~11:30 模擬授業 3 読むこと (説明的文章)「e ラーニング教材による「鑑賞・批評」指導『君は「最後の晩餐」を知っているか』(光村図書 2 教材)」

授業者 富樫忠浩 (栗山町立栗山小学校)

11:35~12:00 模擬授業 4 読むこと (文学的な文章)「書き足し・書き替え物語で読み深めよう『ぼくのブック・ウーマン』(光村図書小 6 教材)」

授業者 京野真樹 (秋田大学教育文化学部附属小学校)

12:00 諸連絡 (昼食場所・総会案内等)

12:10 昼休み・理事会

13:00 学会総会 (事業・会計報告、事業・予算案等)

##### 第二部 提案授業の検討

13:30~14:20 検討 1 話すこと・聞くこと領域

指定討論者・司会 渥美清孝 (釧路市立桜が丘小学校・大分大学)

提案者 田邊 泰 (青山学院大学)

指定討論者 西山悦子 (東京都台東区立田原小学校)

中村麻里那 (茨城大学教育学部附属中学校)

長谷川祥子 (青山学院大学)

野口芳宏 (植草学園大学名誉教授)

14:25~15:15 検討 2 書くこと領域

指定討論者・司会 高木輝夫（ひたちなか市立枝川小学校）

提案者 岩下 修（元立命館小学校）

指定討論者 塚田直樹（太田市立藪塚本町小学校）

瀧沢葉子（上尾市立大石北小学校）

山中伸之（小山市立羽川小学校・東京未来大学）

國府田祐子（淑徳大学）

15：25～16：15 検討3 読むこと領域（説明的な文章）

指定討論者・司会 今井 東（育英短期大学）

提案者 富樫忠浩（栗山町立栗山小学校）

指定討論者 小川智勢子（環太平洋大学）

開田晃央（水戸教育事務所学校教育課）

渡辺真由美（越谷市立北越谷小学校）

柳谷直明（北海道教育大学）

16：20～17：10 検討4 読むこと領域（文学的な文章）

指定討論者・司会 佐藤洋一（愛知教育大学名誉教授）

提案者 京野真樹（秋田大学教育文化学部附属小学校）

指定討論者 安 暁彦（茨城大学教育学部附属中学校）

照井孝司（せせらぎ国語教室）

篠原京子（東京未来大学）

中村孝一（常葉大学）

※ 所属は第34回秋田大会時のもの。

17：15 閉会挨拶 中村孝一（副会長）

17：20 諸連絡

### 3 令和8（2026）年度総会

大会開催日に総会を行った。任期満了による役員改選、理事会の運営、事務局通信の発行、大会紀要『言語技術教34』発刊、第34回秋田大会開催業務等、令和7年度の事業報告を行った。

本総会で承認された役員・理事（退任1名、新任1名）、事業計画を掲載する。

（1）令和8（2026）年度役員・理事

【会長、代表理事】 ・今井 東

【会長代行、副会長】 ・高木輝夫 ・渥美清孝

【常任理事】

・今井 東（代表理事） ・野口芳宏 ・大内善一 ・柳谷直明 ・高木輝夫 ・渥美清孝

【理事】（五十音順）

・渥美清孝	・井上善弘	・今井 東	・岩崎 淳	・岩下 修
・大内善一	・大貫真弘	・小川智勢子	・開田晃央	・木山麻衣子
・京野真樹	・國府田祐子	・小森 茂	・佐藤洋一	・篠原京子
・瀧沢葉子	・高木輝夫	・高橋 勲	・田邊 泰	・塚田直樹
・照井孝司	・富樫いずみ	・富樫忠浩	・中村孝一	・中村麻里那
・西山悦子	・野口芳宏	・長谷川祥子	・平河 力	・増田 泉

・三浦 弘（新）・望月善次      ・安 暁彦      ・柳谷直明      ・山中伸之  
 ・渡邊靖之      （計36人）

＜退任＞      ・松澤正仁      ※本人の御意向により理事を退任された。

【監事】      ・未定

【事務局長】      ・田邊 泰

## （2）事業計画

- ・令和8（2026）年度第2回理事会（令和7年9月6日）にて令和7（2025）年度大会収支を含む令和7（2025）年度決算・監査報告、令和8（2026）年度大会収支を含む令和8（2026）年度予算案、第35回研究大会企画検討、授業者・登壇者検討、大会事務局組織を検討する。
- ・『言語技術教育35』は溪水社からの発行を目指す。
- ・令和8（2026）年度大会の準備・運営を行う。

## 4 『言語技術教育34』内容

日本言語技術教育学会第三四回研究大会・秋田大会の成果と課題の想定		柳谷直明
一 特集 私が主張する「言語技術教育論」		
◆ 思考力・判断力・表現力等を育てる発問を含む小・中学校国語科eラーニング教材		
・授業開発		柳谷直明
◆ 〈学習の手引き〉で言語技術を可視化する（2）—大村はまの「てびき」（「聞くこと・話すこと」領域の事例）を手がかりに—		大内善一
◆ 言語人格に支えられた言語技術		野口芳宏
◆ 読解表現力を支える言語技術の指導		中村孝一
◆ スピーチメモの有効性を認知的側面から考える		渥美清孝
◆ パラグラフの形式に沿って「空間配列型」の説明文を書く授業の提案		今井 東
◆ 文章構成を意識できる教材の提案（中・高等学校）		長谷川祥子
◆ 認知科学の視点から見た言語技術教育		高木輝夫
二 授業一「話すこと・聞くこと」領域での言語技術指導		
教材名 記者になって、質問をしよう（自作小六教材、学習者小六予定）		
◆ 国語科学学習指導案 記者になって、質問をしよう（自作小六教材、学習者小六予定）	田邊 泰	
◆ 質問することの「ハードル」が高い	同	
◆ 言語技術を自覚させる	渥美清孝	
◆ 深く理解するための「質問する力」を身に付ける	西山悦子	
◆ ブレインストーミングとフィードバックで「質問する力」を付ける	中村麻里那	
◆ 質問は「話す・聞く」学習の基礎・基本を身につけてから	長谷川祥子	
◆ 音声言語指導の本来像	野口芳宏	
◆ 「主体的に聞く」ための言語技術	増田 泉	
◆ 日常生活で生きる資質・能力を育むために	坂本 要	
◆ 「引用」と「視点」の言語技術	斉藤美智子	
◆ 必要な情報を集めるための「引用」を用いた質問の技術	大淵康孝	
三 授業二「書くこと」領域での言語技術指導		

教材名「学校で好きな場所」を四段落構成でまとめる（自作小四教材、学習者小四予定）	
◆ 国語科学習指導案 「学校で好きな場所」を四段落構成でまとめる（自作小四教材、学習者小四予定）	岩下 修
◆ 説明的作文・観点型による作文筆記法	岩下 修
◆ 「作文の書き方ガイド」の活用を授業展開の中盤に位置付ける	高木輝夫
◆ 伝えたいことに合わせて段落をつくる技術の習得	塚田直樹
◆ 「なか」は詳しく、「まとめ」は事例の共通する性質を書く	瀧沢葉子
◆ 生成AIを活用した作文指導の可能性	山中伸之
◆ 成人後も役立つ「書き方指導」が大切である	國府田祐子
◆ 「四段落構成でまとめる」必然性はどこにあるのか	大内善一
◆ 教材名『「学校で好きな場所」を四段落構成でまとめる』一日直作文の応用―	櫻井智雄
◆ 型を知ることの重要性	岩崎 淳
◆ 「段落っていいな」未来につながる言語技術を	川又智子
◆ 「なか」に書くべきものは「感想」でなく「事実」	小泉尚子
◆ 作文における事前指導技術―「段落構成」の吟味―	伊藤孝之
◆ 文章構成と事実の書き方という言語技術を学習する	西山明人
◆ 令和の作文指導における「型」の是非	山本裕貴
四 授業三「読むこと」（説明的文章）領域での言語技術指導	
教材名eラーニング教材による「鑑賞・批評」指導～『君は「最後の晩餐」を知っているか』（光村図書中二教材、学習者小六予定）～	
◆ 国語科学習指導案eラーニング教材による「鑑賞・批評」指導～『君は「最後の晩餐」を知っているか』（光村図書中二教材、学習者小六予定）～	富樫忠浩
◆ eラーニングを活用した言語技術指導―論説文における「鑑賞・批評」指導―	富樫忠浩
◆ eラーニング教材『君は「最後の晩餐」を知っているか』への要望、疑問、期待	今井 東
◆ 文章を批判的に読み、「書くこと」に活かす	小川智勢子
◆ 具体と抽象を捉える指導	開田晃央
◆ 論理的に「書く」手本にするために「読む」学習の必要性	渡辺真由美
◆ 読解・鑑賞指導における読解力深化に有効な文種意識の育成に関する研究のための一考察～鑑賞・批評という新たな文種を通して～	柳谷直明
◆ もとの文章を書いた者と同程度にエネルギーを使う	上原秀一
◆ これからの子供達に必要な言語技術とは	富樫いずみ
◆ 『君は「最後の晩餐」を知っているか』を批評文でまとめる	神部秀一
◆ ダ・ヴィンチの「新しさ」―抽象的な言葉を説明する言語技術―	池田尚子
◆ 反転学習とジグソー学習で学びを深める	井上善弘
◆ 論理的文章の特性に応じて指導する	大木真智子
◆ 「鑑賞・批評」用語の「入手・獲得」と「活用・応用」を図る指導	三浦 弘
五 授業四「読むこと」（文学的文章）領域での言語技術指導	
教材名ぼくのブック・ウーマン（光村図書小六教材、学習者小六予定）	
◆ 国語科学習指導案 書き足し・書き替え物語で読み深めよう（光村図書小六教材、学習者小六予定）	京野真樹

◆ 新教材の魅力と課題を優れた実践論で捉え直す	京野真樹
◆ 「探究的な学び」で本との出会いを考える―『ぼくのブック・ウーマン』を例に―	佐藤洋一
◆ 「ぼくのブック・ウーマン」はどのような言語技術を見出すのか	安 暁彦
◆ 「山場の情報量が乏しい」教材をどう扱うのか	照井孝司
◆ 生涯を通して文学を享受し、豊かな人生を歩むための物語指導	篠原京子
◆ いろいろな学習活動が可能な教材『ぼくのブック・ウーマン』	中村孝一
◆ 「僕と私のブック・ウーマン」の授業計画	松澤正仁
◆ ノンフィクションの特性を活かした授業が求められる	大貫眞弘
◆ 学習用語の効果を考えることで、読むことの楽しさを味わわせる指導を	平河 力
◆ 文学教材を読む最大の目標は「楽しく読む」ことである	佐野一機
六 第33回研究大会（群馬大会）の報告	渥美清孝
編集後記	柳谷直明

## IV 令和8(2026)年度第2回理事会(令和7年9月6日開催)

Zoomを活用してオンラインで理事会を行った。令和7(2025)年度大会収支を含む令和7(2025)年度決算・監査報告、令和8(2026)年度大会収支を含む令和8(2026)年度予算案、令和8(2026)年度理事及び役員の選出、第35回研究大会企画、授業者・登壇者を検討した。

### 1 決算報告・予算案

決算報告と予算案が承認された。

令和 7（2025）年度決算報告（令和 7（2025）年度第 34 回秋田大会収支含）

令和 7（2025）年度会計は令和 6（2024）年 9 月 7 日（土）第 2 回理事会当日から、令和 7（2025）年 9 月 6 日理事会前日までである。今回の決算に令和 7（2025）年度第 34 回秋田大会収支が含まれる。

収入

（単位：円）

科目	細目	今年度予算額	今年度決算額	増減	備考
	繰越金	1, 853, 656	1, 853, 656	0	
参加費	五）令和七（二〇二一）年度第三十四回秋田大会	160, 000	136, 000	△24, 000	4, 000 円（会員事前）34 名
		135, 000	94, 500	△40, 500	4, 500 円（非会員事前）21 名
		25, 000	2, 500	△22, 500	2, 500 円（学生事前）1 名
		45, 000	4, 500	△40, 500	4, 500 円（会員当日）1 名
		50, 000	20, 000	△30, 000	5, 000 円（非会員当日）4 名
		30, 000	0	△30, 000	3, 000 円（学生当日）0 名
参加費計		445, 000	257, 500	△187, 500	合計 61 名（前年度 97 名）
会費	新規	6, 000	6, 000	0	2 名
雑収入	印税	10, 000	4, 180	△5, 820	31 号 5 冊，32 号 4 冊分，33 号 11 冊分
	紀要	9, 000	24, 950	15, 950	過去紀要販売
	雑費	0	1, 125	1, 125	利息他
合計		2, 323, 656	2, 147, 411	△176, 245	

支出

	科目	細目	今年度予算額	今年度決算額	増減	備考
研究大会事務局	事務費	消耗品費	20,000	15,642	△4,358	封筒、用紙他
		印刷・製本費	10,000	0	10,000	
	会場費	会場使用費	10,000	29,722	19,722	4・6年生教室大会会場費
	通信・運搬費	通信費	0	0	0	メール便、郵券他
		運搬費	0	0	0	資料等
	会議費	茶菓費	40,000	26,544	△13,456	28名分弁当代
	報償費	アルバイト	10,000	11,253	1,253	筆記用具等
	予備費		0	0	0	
	小計		90,000	83,161	△6,839	
本部事務局	事務費	消耗品費	20,000	6,716	△13,284	封筒、紙他
		印刷費	245,000	305,800	60,800	溪水社支払い
	会場費	使用料	0	0	0	
	通信・運搬費	通信費	10,000	15,065	5,065	郵券、発送費
		運搬費	10,000	34,680	24,680	紀要、資料等
	会議費	茶菓費	0	0	0	
	報償費	アルバイト	0	0	0	
	予備費		1,948,656	1,701,989	△246,667	繰越金決算
	小計		2,233,656	2,064,250	△169,406	
合計		2,323,656	2,147,411	△176,245		

収支 2, 147, 411 - 2, 147, 411 = 0



令和 8（2026）年度予算案（令和 8（2026）年度第 34 回島根大会収支含）

令和 8（2026）年度会計は令和 7（2025）年 9 月 6 日（土）第 2 回理事会当日から、令和 8（2026）年度第 2 回理事会前日までである。今回の予算には、令和 8（2026）年第 35 回島根大会収支が含まれる。

収入

					(単位：円)
科目	細目	前年度予算額	今年度予算額	増減	備考
	繰越金	1, 853, 656	1, 701, 989	△151, 667	
参加費	令和八(二〇二六)年第三十五回島根大会	160, 000	160, 000	0	4, 000 円 (会員事前) 40 名
		135, 000	135, 000	0	4, 500 円 (非会員事前) 30 名
		25, 000	25, 000	0	2, 500 円 (学生事前) 10 名
		45, 000	45, 000	0	4, 500 円 (会員当日) 10 名
		50, 000	50, 000	0	5, 000 円 (非会員当日) 10 名
		30, 000	30, 000	0	3, 000 円 (学生当日) 10 名
参加費計		445, 000	445, 000	0	合計 110 名参加予定 (前年度 61 名)
会費	新規	6, 000	6, 000	0	2 名
入雑収	印税	10, 000	10, 000	0	31 号, 32 号, 33 号, 34 号
	紀要	9, 000	9, 000	0	過去紀要販売費
	雑費	0	0	0	利息他
合計		2, 323, 656	2, 171, 989	△151, 667	

支出

	科目	細目	前年度予算額	今年度予算額	増減	備考
研究大会事務局	事務費	消耗品費	20,000	20,000	0	用紙他
		印刷・製本費	10,000	10,000	0	インク、案内印刷、紀要製本他
	会場費	会場使用費	10,000	10,000	0	大会会場費
	通信・運搬費	通信費	0	0	0	メール便、郵券他
		運搬費	0	0	0	資料等
	会議費	茶菓費	40,000	40,000	0	役員理事弁当代
	報償費	アルバイト	10,000	10,000	0	大会役員
	予備費		0	0	0	
	小計		90,000	90,000	0	
本部事務局	事務費	消耗品費	20,000	20,000	0	用紙、インク他
		印刷費	245,000	310,000	65,000	研究論文集作成費
	会場費	会場使用料	0	0	0	
	通信・運搬費	通信費	10,000	10,000	0	メール便、郵券他
		運搬費	10,000	10,000	0	紀要、資料等
	会議費	茶菓費	0	0	0	
	報償費	アルバイト	0	0	0	
	予備費		1,948,656	1,731,989	△216,667	繰越金予算
	小計		2,233,656	2,081,989	△151,667	
合計		2,323,656	2,171,989	△151,667		

収支 2,171,989 - 2,171,989 = 0

## 2 令和8(2026)年度理事及び役員の選出

＜令和8(2026)年度理事及び役員＞

【会長、代表理事】 ・今井 東

【会長代行、副会長】 ・高木輝夫 ・渥美清孝 ・田邊泰

【常任理事】

・今井 東（代表理事） ・野口芳宏 ・大内善一 ・柳谷直明 ・高木輝夫 ・渥美清孝

【理事】（五十音順）

・渥美清孝	・井上善弘	・今井 東	・岩崎 淳	・岩下 修
・大内善一	・大貫眞弘	・小川智勢子	・開田晃央	・木山麻衣子
・京野真樹	・國府田祐子	・佐藤洋一	・篠原京子	・瀧沢葉子
・高木輝夫	・高橋 勲	・田邊 泰	・塚田直樹	・照井孝司
・富樫いずみ	・富樫忠浩	・中村孝一	・中村麻里那	・西山悦子
・野口芳宏	・長谷川祥子	・平河 力	・増田 泉	・三浦 弘
・望月善次	・安 暁彦	・柳谷直明	・山中伸之	・渡辺真由美（新）
・渡邊靖之	（計 36 人）			

【監事】 ・中村麻里那 ・千葉勝志

【事務局長】 ・田邊 泰（副会長と兼任）

## 3 令和9(2027)年度第36回研究大会の件

第36回研究大会の開催について、下記のように承認された。

＜令和9(2027)年度日本言語技術教育学会第36回大会（群馬大会）＞

・会 場 群馬大学

## V 日本言語技術教育学会第 35 回大会(島根大会)

### 1 大会テーマなど

【大会テーマ】言語技術が見える授業づくり

【期 日】令和 8 年 7 月 4 日 (土)

【後 援】文部科学省 (申請予定)、島根県教育委員会 (申請予定)

【会 場】学校法人 大多和学園 開星中学校・高等学校

住所：〒690-0017 島根県松江市西津田 9 丁目 11 番 1 号

地図：[x.gd/BUbVU](https://x.gd/BUbVU)

【参加費】事前入金 会員 4,000 円 非会員 4,500 円 学生 2,500 円

当日入金 会員 4,500 円 非会員 5,000 円 学生 3,000 円(資料費込)

### 2 日程

09:00 受付開始

09:45 諸連絡

会場校長挨拶 小山内仁先生 (開星中・高等学校)

09:50 開会挨拶 今井 東(会長)

#### 第一部 提案授業

10:00～10:25 模擬授業 1 話すこと・聞くこと 説明の言語技術の指導～話す・聞く自作教材『分かりやすく説明しよう』(小6)

指導者 今井 東 (群馬大学)

10:30～10:55 模擬授業 2 書くこと(作文) 描写の言語技術の指導～作文自作教材『モノの気持ち』翻訳家になろう』(中2)

指導者 中村麻里那 (茨城大学教育学部附属中学校)

11:05～11:30 模擬授業 3 読むこと(説明的な文章) 対話方式による説明的文章の読解方略の指導～『想像力のスイッチを入れよう』(光村図書教材、小5)での言語技術指導

指導者 山中伸之 (小山市立大谷北小学校)

11:35～12:00 模擬授業 4 読むこと(文学的文章) 鑑賞の言語技術の指導法～文学的文種「短歌」(小4)

指導者 野口芳宏 (植草学園大学名誉教授)

12:00 諸連絡(昼食場所・総会案内等)

12:10 昼休み・理事会

13:00 学会総会(事業・会計報告、事業・予算案等)

#### 第二部 提案授業の検討

13:30～14:20 検討 1 「話すこと・聞くこと」領域

指定討論者・司会 安 暁彦 (茨城大学)

提案者 今井 東 (群馬大学)

指定討論者 渥美清孝 (釧路市立桜が丘小学校)

小川智勢子 (環太平洋大学)

高木輝夫（ひたちなか市立枝川小学校）

瀧沢葉子（上尾市立大石北小学校）

14：25～15：15 検討2「書くこと(作文)」領域

指定討論者・司会 柳谷直明（北海道教育大学札幌校）

提案者 中村麻里那（茨城大学教育学部附属中学校）

指定討論者 井上善弘（国土舘大学）

大内善一（茨城大学名誉教授）

塚田直樹（太田市立薮塚本町小学校）

渡辺真由美（越谷市立北越谷小学校）

15：25～16：15 検討3「読むこと(説明的文章)」領域

指定討論者・司会 富樫忠浩（栗山町立栗山小学校）

提案者 山中伸之（小山市立大谷北小学校）

指定討論者 岡本明人（伯耆駿英予備校）

開田晃央（水戸教育事務所学校教育課）

中村孝一（常葉大学）

西山悦子（台東区立田原小学校）

16：20～17：10 検討4「読むこと(文学的文章)」領域

指定討論者・司会 京野真樹（秋田大学教育文化学部附属小学校）

提案者 野口芳宏（植草学園大学名誉教授）

指定討論者 佐藤洋一（愛知教育大学名誉教授）

長谷川祥子（青山学院大学）

三浦 弘（元秋田県公立小学校）

矢頭香織（開星中学校・高等学校）

※ 所属は令和7年12月時点のもの。

17：15 閉会挨拶

17：20 諸連絡、懇親会案内他

### 3 大会申し込み方法

(1) 大会名をネットで検索し「こくち一ず」で申込んでください。2次元コード

こくち一ず URL <https://www.kokuchpro.com/event/20250704/>

(2) 下記ゆうちょ銀行口座への入金をお願いします。

①ゆうちょ銀行からの入金「振替口座記号番号 00230-1-118568／口座名称 日本言語技術教育学会(二ホンゲンゴギジュツキョウイクガツカイ)」

②ゆうちょ銀行以外からの入金「店名(店番)〇二九(ゼロニキュウ)店(029)／預金種目 当座／口座番号 0118568」

(3) 入金後に入金告知、氏名、勤務先、Eメールアドレス、総会と懇親会の参加の有無を下記事務局へメールしてください。

(4) 「こくち一ず」以外の申込み問合せ先は下記です。

第35回大会実行委員会受付担当 瀧沢葉子 E-mail : gengogijyututokyokanda@gmail.com



↓ 第35回大会のチラシ

日本言語技術教育学会

第35回島根開星中学校・高等学校大会

大会テーマ 言語技術が見える授業づくり

話す・聞く『分かりやすく説明しよう』(自作教材小6)／作文『モノの気持ち』(翻訳家になろう) (自作教材・中2)  
説明的文種『想像力のスイッチを入れよう』(光村図書教材、小5)／文学的文種「短歌」での言語技術指導(小6)  
これらの教材で身に付けさせる言語技術

【期 日】令和8 (2026) 年7月4日 (土) 9:45～17:20

【後 援】文部科学省、島根県教育委員会 (申請中) 申込先「こくち一ず」→

【会 場】大多和学園 開星中学校・高等学校 〒690-0017 島根県松江市西津田9丁目11番1号  
JR松江駅から徒歩で約25分程度

【参加費】■事前入金 (7月2日入金まで有効) 会員4,000円 非会員4,500円 学生2,500円 (資料費込み)  
■当日入金 会員4,500円 非会員5,000円 学生3,000円 ■懇親会 事前のみ 5,000円

9:30 受付開始

9:45 諸連絡 田邊 泰 (事務局長)  
会場校長挨拶 小山内 仁 (開星中・高等学校)

9:50 開会挨拶 今井 東 (会長)

第1部 模擬授業

模擬授業1 説明の言語技術の指導～話す・聞く自作教材『分かりやすく説明しよう』(小6)  
10:00～10:25 (25分)  
指導者 今井 東 (群馬大学)

模擬授業2 描写の言語技術の指導～作文自作教材『モノの気持ち』(翻訳家になろう) (中2)  
10:30～10:55 (25分)  
指導者 中村麻里那 (茨城大学附属中学校)

模擬授業3 対話方式による説明的文種の読解方略の指導～『想像力のスイッチを入れよう』(光村図書教材、小5)での言語技術指導(教科書教材は配付しません。)  
11:05～11:30 (25分)  
指導者 山中伸之 (小山市立羽川小学校)

模擬授業4 鑑賞の言語技術の指導法～文学的文種「短歌」(小4)～  
11:35～12:00 (25分) , 学習者小4予定  
指導者 野口芳宏 (植草学園大学名誉教授)

12:00 諸連絡 (昼食場所・総会案内等)  
12:10 昼休み・理事会  
13:00 学会総会 (事業・会計報告、事業計画・予算案等)

※ ビデオ不可、写真撮影は個人使用の場合のみ可とする。  
※ 所属は令和8 (2026) 年3月31日現在である。

第2部 模擬授業の検討

検討1 「話すこと・聞くこと」13:30～14:20(50分)  
指定討論者・司会 安 曉彦 (茨城大学)  
提案者 今井 東 (群馬大学)  
指定討論者 渥美清孝 (鉏路市立桜が丘小学校)  
小川智勢子 (環太平洋大学)  
高木輝夫 (ひたちなか市立那珂阿波第二小学校)  
瀧沢葉子 (上尾市立大石北小学校)

検討2 「書くこと(作文)」14:25～15:15(50分)  
指定討論者・司会 柳谷直明 (北海道教育大学)  
提案者 中村麻里那 (茨城大学附属中学校)  
指定討論者 井上善弘 (国士舘大学)  
大内善一 (茨城大学名誉教授)  
塚田直樹 (太田市立蔵本町小学校)  
渡辺真由美 (越谷市立北越谷小学校)

検討3 「読むこと(説明的文章)」15:25～16:15(50分)  
指定討論者・司会 富樫忠浩 (栗山町立栗山小学校)  
提案者 山中伸之 (小山市立羽川小学校)  
指定討論者 岡本明人 (伯耆駿英予備校)  
開田晃央 (水戸教育事務所学校教育課)  
中村孝一 (常葉大学)  
西山悦子 (台東区立田原小学校)

検討4 「読むこと(文学的文章)」16:20～17:10(50分)  
指定討論者・司会 京野真樹 (秋田大学教育文化学部附属小学校)  
提案者 野口芳宏 (植草学園大学名誉教授)  
指定討論者 佐藤洋一 (愛知教育大学名誉教授)  
長谷川祥子 (青山学院大学)  
三浦 弘 (元秋田県公立小学校)  
矢頭香織 (開星中学校・高等学校)

17:15 開会挨拶 高木輝夫 (副会長)  
17:20 諸連絡、懇親会案内他

参加方法

(1) 大会名をネットで検索し、「こくち一ず」で申込みます。次に、下記のゆうちょ銀行口座への入金をお願いします。  
(2) ①ゆうちょ銀行からの入金「振替口座記号番号 00230-1-118568 / 口座名称 (日本言語技術教育学会)」  
②ゆうちょ銀行以外からの入金「店名(店番)〇二九(ゼロニキュウ)店(029) / 預金種目 当座 / 口座番号 0118568」  
(3) 入金後、入金告知、氏名、勤務先、Eメールアドレス、総会と懇親会の参加の有無を下記事務局へメールします。  
(4) それ以外の申込み問合先 第35回大会実行委員会受付担当 瀧沢葉子 E-mail: genggogi.jyututokyokanda@gmail.com

13

## VI 学会紀要について

紀要第1号～第21号は明治図書から、第31号～第34号は溪水社から刊行した。

『言語技術教育 第1号』(1993、明治図書) 特集 言語技術教育でどんな力がつくか(1580 円)

『言語技術教育 第2号』(1994、明治図書) 特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する(1794 円)

『言語技術教育 第3号』(1995、明治図書) 特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する(1794 円)

『言語技術教育 第4号』(1995、明治図書) 特集 この文学教材でこの言語技術を教える(2314 円)

『言語技術教育 第5号』(1996、明治図書) 特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか(1682 円)

『言語技術教育 第6号』(1997、明治図書) 特集 論理的思考力を鍛える作文技術(1995 円)

『言語技術教育 第7号』(1998、明治図書) 特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか(1890 円)

『言語技術教育 第8号』(1999、明治図書) 特集 音声言語指導の教材開発・授業開発(2058 円)

『言語技術教育 第9号』(2000、明治図書) 特集 総合的学習を支える言語技術とは何か(2205 円)

『言語技術教育 第10号』(2001、明治図書) 特集 総合的学習と「読み・書き」の技術(2058 円)

『言語技術教育 第11号』(2002、明治図書) 特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術(1953 円)

『言語技術教育 第12号』(2003、明治図書) 特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任(1995 円)

『言語技術教育 第13号』(2004、明治図書) 特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か(1760 円)

『言語技術教育 第14号』(2005、明治図書) 特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける(1890 円)

『言語技術教育 第15号』(2006、明治図書) 特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革(1953 円)

『言語技術教育 第16号』(2007、明治図書) 特集 国語学力を育てる言語技術教育(1953 円)

『言語技術教育 第17号』(2008、明治図書) 特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業(1953 円)

『言語技術教育 第18号』(2009、明治図書) 特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術(1680 円)

『言語技術教育 第19号』(2010、明治図書) 特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは(1890 円)

『言語技術教育 第20号』(2011、明治図書) 特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる(1953 円)

『言語技術教育 第21号』(2012、明治図書) 特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか(1890 円)

『言語技術教育 第22号』(2013、私家版) 特集 単元を貫く言語技術を解明する(1890 円)

『言語技術教育 第23号』(2014 特集 言語技術が見える授業づくりー学力向上に役立つ言語技術ー(500 円)

『言語技術教育 第24号』(2014、私家版) 特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何かー「ごんぎつね」を例にー(500 円、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第25号』(2015、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくりー「大造じいさんとか

ん」「和の文化を受けつぐー和菓子をさぐるー」で身につけさせる言語技術—(500 円、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 26 号』(2016、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「ごんぎつね」「天気を予想する」で身につけさせる言語技術—(500 円、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 27 号』(2017、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「スイミー」「すがたをかえる大豆」「短歌」で身につけさせる言語技術—(500 円、残部有、希望者は事務局へ照会)、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 28 号』(2018、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「リクエスト給食のメニューを決めよう(話す・聞く)」「新商品のよさを伝えよう(書く)」説明文「未来に生かす自然のエネルギー」文学「海のいのち」で身につけさせる言語技術—(500 円、残部有、希望者は事務局へ照会)、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 29 号』(2019、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり—「論理的に読む学習」「すがたをかえる大豆」「天気を予想する」「ふきのとう」で身につけさせる言語技術—(1000 円、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 30 号』(2020、私家版) 特集 言語技術が見える授業づくり —「反論を先取りして主張する」「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」「一つの花」「話し方」で身につけさせる言語技術—(1000 円、残部有、希望者は事務局へ照会)

『言語技術教育 第 31 号』(2022、溪水社) 特集 言語技術が見える授業づくり—「聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る」「図や表を活用して書く作文指導」「メディアと人間社会」「走れメロス」で身につけさせる言語技術—(2090 円、販売は Amazon : [x.gd/4Qehr](https://www.amazon.co.jp/dp/4499114499))

『言語技術教育 第 32 号』(2023、溪水社) 特集 言語技術が見える授業づくり—「他者の発言に心傾けて」「根拠を明確にして意見・感想を述べる」「笑うから楽しい」「高浜虚子の俳句を詠み味わおう」で身につけさせる言語技術—(2090 円、販売は Amazon : [x.gd/kE6ar](https://www.amazon.co.jp/dp/4499114505))

『言語技術教育 第 33 号』(2024、溪水社) 特集 言語技術が見える授業づくり—「子供学芸員になろう～対話による絵画の鑑賞を通して」「ミニ芥川賞作家になろうーテキスト生成 AI (ChatGpt) の選択を通してー』『固有種が教えてくれること』『うんとこしょ』(谷川俊太郎) で身につけさせる言語技術—(2090 円、販売は Amazon : [x.gd/JpWib](https://www.amazon.co.jp/dp/4499114512))

『言語技術教育 第 34 号』(2025、溪水社) 特集 言語技術が見える授業づくり—『記者になって、質問をしよう』『「学校ですきな場所」を 4 段落構成でまとめる』『e ラーニング教材による「鑑賞・批評」指導』『君は「最後の晩餐を知っているか」』『ぼくのブック・ウーマン』で身につけさせる言語技術—(2090 円、販売は Amazon : [x.gd/a0c1G](https://www.amazon.co.jp/dp/4499114529))

※ 明治図書、溪水社発行『言語技術教育』は Amazon で購入できます。

※ 私家版は事務局に残部があります。事務局 (今井 mail : [imasen1849@gmail.com](mailto:imasen1849@gmail.com)) に照会してください。

## Ⅶ 新規会員の申し込みについて

本学会は研究者と実践者が意見交換できる貴重な場です。また、言語技術教育の解明、普及のために提案を続けています。この価値ある場へお誘いください。会の普及に御協力ください。

- (1) 下記の口座へ入会金 3,000 円の入金をお願いします。(年会費無料)
- (2) 事務局(事務局(田邊 mail : [bob.bt.1019@gmail.com](mailto:bob.bt.1019@gmail.com))へ住所、氏名、勤務先をメールしてください。
- (3) 事務局からの返信メールを確認してください。(1週間以内に返信がない場合、再度メールを送信ください。)

◎入会金の入金先

- ・ゆうちょ銀行「記号 19700／番号 16017741 ニホンゲンゴギジュツキョウイクガッカイ」
- ・ゆうちょ銀行他金融機関「店名九七八／店番 978／預金種目普通預金／1601774」

※ 研究大会会場の受付でも入会手続きが可能です。

## Ⅷ ネットでの発信

本学会のネット上の情報は次の通りです。

- 1 日本言語技術教育学会公式HP [x.gd/J1gff](http://x.gd/J1gff)
- 2 日本言語技術教育学会 blog [x.gd/9KJsR](http://x.gd/9KJsR)
- 3 日本言語技術教育学会 X 公式アカウント(旧 Twitter) [x.gd/piIdf](http://x.gd/piIdf)
- 4 日本言語技術教育学会 Facebook [x.gd/s9vns](http://x.gd/s9vns)